

Management 株主の皆さまへ Interview

コニカミノルタグループは
さらなる「選択と集中」によって
より強い企業グループを形成し
株主価値の向上を図ります。

代表執行役社長 岩居 文雄

Question

1

平成17年3月期連結決算の概要について説明してください。

中核の情報機器事業では、「ジャンルトップ戦略（特定の市場、領域でトップブランドの地位を確立する）を推進し、成長著しいカラーと高速MFP*、そしてカラープリンタの3つの領域にターゲットを絞りました。その結果、カラーMFPは欧米市場を中心に好調な販売がつづき、販売台数ベースで大きく拡大しました。高速MFPでは、新製品が貢献し、軽印刷市場を中心に販売台数は大幅にアップしました。また、カラープリンタでは欧米市場を中心に販売は堅調に推移しましたが、新規参入などの影響による熾烈な価格競争のなか、価格下落が激しく業績に影響を与えました。結果、情報機器事業では子会社の決算期調整や統合費用などの特殊要因を除くと実質ベースでは売上高は前期並みでしたが、営業利益は減益となりました。

* MFP:コピー、プリンタ、スキャナ、ファックス等多様な機能を有する複合機。



さらなる「選択と集中」を推進



オプト事業では、デジタル家電の生産調整の影響でコンポーネント事業が昨年夏以降伸び悩みましたが、液晶偏光板用フィルムの販売が大きく拡大し増収増益となりました。

フォトイメージング事業は、カラーフィルムの需要縮小やデジタルカメラの価格下落など厳しい状況がつづき、残念ながら損失が拡大しました。構造改革の取り組みを加速化して損失を一日も早く解消することが急務だと考えています。

これらの結果、当期の連結売上高は1兆674億円、営業利益は675億円となりました。

Question

2

平成18年3月期の経営課題について説明してください。

イメージングの領域では、デジタル化・ネットワーク化・カラー化といった技術革新の流れは速く、またグローバルレベルで競争が激化しています。当社を取り巻く環境は今後ますます厳しくなっていくものと見なければなりません。当社はさらなる「選択と集中」を徹底し、今期は特に情報機器・オプト事業へ経営資源を重点配分して事業強化に努め、フォトイメージング事業については事業損失の早期解消を目指し、事業規模を最適レベルにして収益改善の取り組みを加速化させていきます。

Question

3

将来の成長に向けた具体的な投資プランを説明してください。

事業ポートフォリオ経営をさらに徹底して、強化すべき事業に重点投資する方針です。

情報機器事業では、今後大幅に拡大するカラーMFPの販売需要に備えるため、中国(無錫)に組立工場を建設しています。これに伴い消耗品需要も大きく伸びることから、重合法トナーの生産能力増強にも着手しました。オプト事業では、今後も需要増が見込まれる液晶偏光板用フィルムの生産ラインの増設を進めています。

これら新鋭の生産設備は、いずれも平成17年下期中には順次稼働開始する計画です。

Question

4

平成17年3月に新中期経営計画「V-5プラン」を発表しましたが、前の統合中期経営計画との違いは何でしょうか。

平成16年3月に策定した「統合中期経営計画」に沿って、事業再編やITシステム・人事制度の統合などスピードアップを図り、新たに誕生した企業グループとして必要な経営基盤の整備を完了しました。

しかし、オフィス分野でのカラー化の加速、デジタルカメラの競争激化やフィルム需要の減少などの環境変化は統合時の想定を超え、経営計画の上でギャップが生じてきました。「V-5プラン」では、それらの変化に対して軌道修正し、さらなる選択と集中によって、スピードをあげてより強い企業グループの実現を目指しています。